

編集 後記

62巻6号をお届けいたします。本号では、原著1編、研究ノート1編、資料2編が掲載されています。

原著は、保健師の必要性を見せる能力が求められているものの十分ではないという課題に対し、「保健活動の必要性を見せる」部分の能力を測定する尺度を開発し、保健師自身の自己点検や能力開発に活かすことを目的とした研究です。今後、実践の場で活用されることにより、自身の能力開発に留まらず、他者からの評価にも繋がり、さらに他の公衆衛生専門職にも活用されていくことが期待されます。

研究ノートでは、高齢者向け就労支援施設の取り組みとして、具体的に一区の施設をフィールドに施設利用者を縦断的に調査した結果がまとめられています。そこには高齢者の生活の実態や就労に関する課題が明らかにされ、今後の高齢者保健福祉施策の一環として就労支援が欠かせないことが提言されています。

資料では、都道府県における地域歯科口腔保健推進体制に関する実態調査の結果がまとめられています。2011年に制定・公布された「歯科口腔保健の推進に関する法律」に基づく都道府県の取り組みの実態と課題が明らかにされ、それぞれの自治体において今後の取り組みに活用できるデータと思います。もう1編も自治体を対象とした実態調査結果です。市区町村における「保健所及び市町村における精神保健福祉業務運営要領」運用の調査から担当職員や業務内容の実態が明らかになり、ことに業務の実施が市町村規模と関係することが示唆されています。法律や条例、要領等に示されてもそれぞれの自治体の状況や特性に適応させながら実践しなければならず、具体的にどのように取り組むかが大きな課題となります。

本号では、さまざまな分野から公衆衛生の「今」を映し出す課題が明らかにされています。今後もそれぞれの立場で継続して取り組み、その成果についてのご投稿を期待しております。
(北岡英子)

次号予告 (第62巻・第7号)

原著

医療等分野における番号制度導入への医師を対象にした意識調査……………高橋由光, 他

公衆衛生活動

「住民の健康づくりチェック表」作成の試み
健康づくりへの取り組みや保健活動の活性化を目指して……………阿部朱美, 他

研究ノート

健康づくりに関するメッセージの効果認識の関連要因
社会経済的要因に注目して……………福田吉治, 他

高齢者の緊急連絡先登録システム利用者の特徴
「高齢者見守りキーホルダー」を事例として……………小池高史, 他

第62巻第5号掲載論文「関 なおみ, 他. 東京都におけるデング熱国内感染事例の発生について. 2015; 62(5): 238-250.」において以下の箇所に誤りがありました。

お詫びとともに下記のとおり訂正をお願いいたします。

誤

正

●P. 238「抄録」12行目

(男性62.7%, 年齢中央値31.1 (3~77) 歳)

(男性60.2%, 年齢中央値28.5 (4~77) 歳)

●P. 243「Ⅲ結果」右段下から12行目

年齢の中央値は31.1歳 (3~77歳)

年齢の中央値は28.5歳 (4~77歳)